

J-MILK REPORT

私たちはミルクでつながっています。

Vol.53



業界一体の活動を支援

「牛乳でスマイルプロジェクト」今年度下期の取り組み

国産牛乳・乳製品の実効ある需要拡大を目指し、「牛乳でスマイルプロジェクト」の下で酪農乳業関係者が一体となって取り組む新たな活動が、昨年11月に始動しました。
 情報発信とコラボの基盤となるポータルサイトや公式SNSの本格運用を開始したほか、2月からはヨーグルトの需要拡大活動をSNSや店頭で展開中です。
 今後は、全国の関係者の連携を支援し、相乗効果を生み出す環境づくりに取り組んでいきます。

需要拡大の取り組み
 — ミルクのために、ひとつになろう！

ポータルサイトの機能をさらに強化

全国の酪農乳業関係者による需要拡大活動を一元的に集約し、関係者と消費者双方に発信することで、業界内外の連携促進を目指すポータルサイト。閲覧者の質問にAIチャットが応答する機能を追加し、利便性が向上しました。今後さらに、メンバーの取り組み内容やニーズに応じたビジネスマッチング機能も搭載予定です。



EVENT
 イベントを探す

イベント、キャンペーン、セミナー、酪農体験、工場見学などの情報を掲載

NEWS
 ニュースを探す

メンバーからの最新情報を掲載

一般の方へ

牛乳に関する楽しいイベントや新商品情報を



- プロジェクトについて知りたい!
- 新商品情報を知りたい!
- 楽しいイベントに参加したい!

PR動画の配信 Coming soon

「牛乳でスマイルプロジェクトとは」30秒版/2分30秒版

プロジェクトについて消費者と関係者に伝えるプロモーション動画がまもなく公開! 皆さまのSNSなどでもご活用ください。

メンバー同士のマッチング機能も搭載 Coming soon

参加メンバーの取り組み内容やニーズをAIが分析し、ビジネスマッチング提案を行う機能も追加予定。セキュリティに配慮しながら順次展開していきます。

協働できる団体とマッチングし、取り組みを広く発信

メンバーの方へ

- ミルクの最新情報を知りたい!
- メンバーのイベント実施状況を知りたい!
- ポータルサイトに情報を掲載したい!

AIチャット機能を追加

牛乳・乳製品や酪農乳業に関するさまざまな質問に、Jミルク公式サイト内の情報に基づいて回答する、AIチャット機能を追加しました。

KPIの設定などについて

全国の関係者が活動を行う上での数値目標(KPI)や統一感を持ったテーマを設定し、PDCAを進めながら、実需につながる戦略を図っていきます。

情報をお待ちしております!

メンバーの取り組みはポータルサイトに掲載中

※一部抜粋してご紹介



株式会社明治

「明治おいしい牛乳」公式アカウントや株式会社明治公式アカウントで、年末年始に牛乳・乳製品を楽しんでもらうアイデアやレシピ情報を発信。



群馬県牛乳普及協会

消費拡大イベント「もっと牛乳飲んでくだ祭」を前橋市内で開催(昨年12月7日)。牛乳の飲み比べのほか、「酪農VR体験」などユニークな企画も。



関東生乳販売農業協同組合連合会

“ミルクのある風景”をテーマにしたショート動画を募集する、第2回「牛乳って、いいな。」動画コンテストを開催。結果発表は3月下旬の予定。

SNSでポータルサイト掲載のイベント情報やニュースを発信!



X @milksmile_pj

Instagram @milksmile_pj

公式Xはこちら



公式Instagramはこちら



農林水産省とJミルクが牛乳・乳製品の消費拡大に向けて立ち上げた「牛乳でスマイルプロジェクト」公式アカウントです。皆さまからのフォローをお待ちしております!

「#牛乳でスマイル」でもっとつながろう

「牛乳でスマイルプロジェクト」で使用する略語ハッシュタグが、SNS投票の結果「#牛乳でスマイル」に決定。SNSではこのハッシュタグで発信・検索して、牛乳・乳製品を盛り上げましょう!

多くのメンバーがSNSで発信中です!

※一部抜粋してご紹介



農林水産省 YouTube公式チャンネル @maffchannel

鈴木憲和・農林水産大臣が、記者会見で冬場や年末年始の牛乳・乳製品の需要喚起をアピール。Xでのポストは360万回以上も閲覧され、大きな話題に。

出典:鈴木農林水産大臣記者会見(2025年11月21日)



日本乳業協会 | 牛乳先生と仲間たち @gyunyu_sensei

「牛乳先生と仲間たち」のコンセプトで関連情報を発信する広報アカウント。人気クリエイターのきさんとのコラボ動画もシリーズで投稿している。



地域交流牧場全国連絡会 @全国の"交牧連"メンバーが発信中

消費者や地域住民との交流や教育活動を積極的に推進している酪農家の全国組織。昨年末~今年3月の「SNSで酪農応援大作戦」にも多くのメンバーが参加。

2025年度「牛乳でスマイルプロジェクト」優良事例報告会(オンライン)を開催!

「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーによるこれまでの優れた活動事例を発表・共有する、初の事例報告会を3月にオンライン開催します。詳細は今後ポータルサイトやSNSでお知らせします。

日時
2026年3月24日(火)
13:30~15:00(予定)

新習慣の提案でヨーグルトの需要拡大へ 「ヨルグルト」キャンペーンを全国で展開

牛乳・乳製品の需要が伸び悩む中、脱脂粉乳の在庫増大が業界全体の課題となっています。ヨーグルトは脱脂粉乳の最大の用途先であり、その消費拡大は酪農乳業の安定に直結する重要なテーマです。こうした課題に対応して、「ミルクでは「牛乳でスマイルプロジェクト」の下で、“夜のヨーグルト”という新たな健康習慣を提案する「ヨルグルト」キャンペーンを今年2月から開始しました。全国の関係者が店頭やSNSなどを通じて、3月末まで展開していきます。

「ヨルグルト」キャンペーンの主な実施施策

店頭POP・デジタルサイネージの掲出

腸は夜の間に栄養吸収や細胞の修復などを活発に行います（「腸のゴールデンタイム」）。店頭掲出物では、その時間帯に合わせたヨーグルト摂取のメリットをロゴとキャッチコピーで訴求。従来の“ヨーグルト＝朝食”のイメージにとらわれない、「夜（夕食時・夕食後）」という新たな喫食シーンを提案します。

- 実施店舗：全国約2,500店舗
※2025年夏は約2,000店舗
- 掲出先：全国のスーパー、コンビニ、ドラッグストアの店頭や牛乳販売店など



イメージキャラクター「グルトくん」

Web CMの配信

イメージキャラクターの「グルトくん」が、ヒップホップ調の楽曲に合わせて踊りながら、夜のヨーグルト習慣を印象的に訴求するCMを配信します。

- 配信媒体：YouTube、TVer、Instagramなど



バナー広告の配信

購買データを活用し、健康や栄養、体調管理に関心が高い層に向けて、アプリ画面にWebバナー広告を配信。特設サイトや店頭への誘導を図ります。

- 配信媒体：スーパー、コンビニ、ドラッグストアの会員向けアプリなど

特設ページの開設

「ヨルグルト」の概要や、夜にヨーグルトを食べる（飲む）メリットがわかるコンテンツ、Web CM動画の閲覧コーナーなど、キャンペーンの理解促進につながる情報を発信します。



特設サイトはこちら

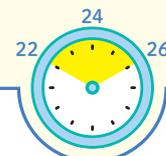


コミュニケーショングループ 専任部長
金山 純一郎

“朝の食品”というイメージが強いヨーグルトですが、夜の喫食習慣を提案することでさらなる需要拡大を目指します。無理なく続けられる健康アクションとしてヨーグルトを広げ、継続的な需要創出と酪農乳業の持続的発展につなげていきたいと考えています。

「腸のゴールデンタイム」とは？

午後10時～午前2時ごろまでの時間帯は、栄養吸収や細胞の修復といった腸の活動が高まり、「腸のゴールデンタイム」とも呼ばれます。この時間に合わせて、夕食時や就寝2～3時間前にヨーグルトを摂取することで、効率的な栄養補給や体のコンディション維持が期待できます。





「牛乳でスマイルプロジェクト ミルクフェス in 豊洲」

開催報告



キックオフイベント

国産牛乳・乳製品の実効ある需要拡大を目指し、酪農乳業関係者が一体となって取り組む活動のキックオフイベントとなる「牛乳でスマイルプロジェクト ミルクフェス in 豊洲」が、昨年11月15日に都内で開催されました。当日は多くのプロジェクトメンバーが出演し、飲料・食品の無償提供や販売、酪農に関する体験プログラムなど多彩なコンテンツを提供。国産牛乳・乳製品の価値と地域性を消費者に伝えると同時に、メンバー同士の交流を深める機会にもなりました。



【「牛乳でスマイルプロジェクト ミルクフェス in 豊洲」概要】

- 日程：2025年11月15日(土)
- 会場：豊洲公園「花木とモニュメント広場」(東京都江東区)
- 主催：一般社団法人Jミルク
- 協力：一般社団法人中央酪農会議、一般社団法人日本乳業協会、
全国農業協同組合連合会、全国酪農協同組合連合会、全国農協乳業協会、
全国乳業協同組合連合会、一般社団法人全国牛乳流通改善協会
- 後援：農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構

【「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバー(企業・団体・個人)による参加数】

319

メンバーが参加

- ブース出展企業・団体：18メンバー
- ブース出展、ステージなどコンテンツ協力者：205人
- 47都道府県の牛乳・ヨーグルト飲み食べ比べ：89メンバー



家族連れを中心に昨年度を上回る3万人近い来場者でにぎわった会場。メンバー出展ブースでの物販も売場が多数見られた。

【来場者数】

29,640

人

※2024年「土日ミルクフェス」の来場者(27,300人)を上回る結果

【47都道府県の牛乳・ヨーグルト飲み食べ比べ体験者数】

牛乳飲み比べ 1,013人 + ヨーグルト食べ比べ 817人 合計 1,830人

【スタンプラリー参加者数】

1,818

人

【SNS総発言数】

集計期間：2025年10月16日～11月21日

「ミルクフェス」「ミルクフェス豊洲」「ミルクフェスin豊洲」いずれかを含む

総発言数 **1,220** 件

総リーチ数 **751,316,712** UU

【事前広報活動】

- ラジオCM
放送局：TOKYO FM
放映期間：2025年11月1日～15日
合計聴取者数 **6,068,041** 人 (延べ)
※聴取可能人口：32,355,519人(東京・神奈川・埼玉・千葉)
年代12歳～69歳/男女/ビデオリサーチ調査

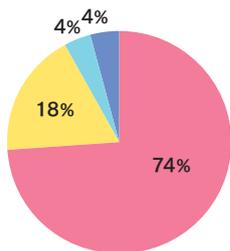
- SNS広告配信
- プレスリリース配信
- チラシのポスティング



酪農家による紙芝居の上演や、牛乳・乳製品との「食べ合わせ」のアピール合戦など、楽しいステージコンテンツも提供。

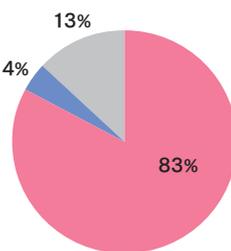
【イベント開催後のブース出展者向けアンケート】 ※アンケート回答者23人

■参加された満足度をお聞かせください。



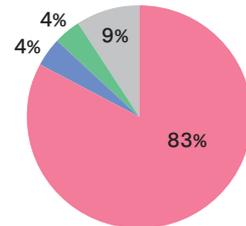
満足 17人
やや満足 4人
やや不満 1人
不満 1人

■来年も開催した方がよいと思いますか。



開催した方がよい 19人
開催する必要はない 1人
どちらでもよい 0人
その他 3人

■2026年度に開催される場合、今年度と同様にブース出展を希望されますか。



ブース出展したい 19人
ブース出展したくない 1人
どちらともいえない 1人
その他 2人

需要拡大の取り組み
— ミルクのために、ひとつになろう！ —

「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーによるブース出展



ミルクランド北海道/全国酪農業協同組合連合会/全農グループ/アサヒ飲料株式会社/カルピス株式会社/協同乳業株式会社/全国農業協同組合連合会/NPO法人うしミルク/一般社団法人ヨグネット/雪印メグミルク株式会社/株式会社明治/株式会社Real Style(ビーレジェンドプロテイン)/大山乳業農業協同組合/日本スナック・シリアルフーズ協会(カルビー株式会社、日清シスコ株式会社、日本ケロッグ合同会社、日本食品製造合資会社)/一般社団法人日本乳業協会/一般社団法人中央酪農会議/一般社団法人全国牛乳流通改善協会/森永乳業株式会社(「milushi みるし」)ミルクとウシと酪農のWebメディア、酪農マルシェ みるくのえん/株式会社ミンナ(日々のパン)/ハウス食品株式会社/株式会社エブリー(デリッシュキッチン)

※順不同

47都道府県 牛乳・ヨーグルト 飲み食べ比べ MAP



北海道 / 東北 / 北陸・甲信越 地方

No.	都道府県	牛乳	ヨーグルト
1	北海道	なかしべつ牛乳	フルーツサラダヨーグルト
2	青森県	青森県産秋産牛乳	生乳100% あおい森のヨーグルト
3	岩手県	小岩井牛乳 東北限定	岩泉ヨーグルト
4	宮城県	モーランド 牧場牛乳	モーランド 牧場ヨーグルト
5	秋田県	雪印メグミルク おいしい牛乳	小岩井生乳100% ヨーグルト
6	山形県	山形県産 放牧酪農牛乳	放牧酪農 プレーンヨーグルト
7	福島県	まつなが3.6牛乳	まるごと会津 食べる生乳ヨーグルト
8	新潟県	佐渡牛乳	ヤスダヨーグルト
9	富山県	とやまの牛乳	とやま プレミアムヨーグルト
10	石川県	のとそだち	のとそだち のむヨーグルト
11	福井県	福井県産牛乳	毎日ヨーグルトプレーン
12	長野県	ハヶ岳高原牛乳	ハヶ岳高原プレーン ヨーグルト生乳100
13	山梨県	きよさと牛乳	きよさとのむヨーグルト

関東 / 東海 / 関西 地方

No.	都道府県	牛乳	ヨーグルト
14	東京都	東京牛乳	ジャージーヨーグルト オールスター
15	茨城県	奥久慈生産者限定牛乳	おみたまヨーグルト
16	栃木県	日光露降高原 大笹牧場牛乳	鹿の街 のむヨーグルト
17	群馬県	東毛酪農 低温殺菌牛乳63度	ピュアプレーンヨーグルト
18	埼玉県	埼玉県産牛乳 うしのち	SEIRAKU ヨーグルトBB-12
19	千葉県	八千代牛乳	千葉酪農 生乳100プレーンヨーグルト
20	神奈川県	タカナン きんたろう牛乳	タカナン 生乳100%ヨーグルト
21	岐阜県	ひるがの高原牛乳	ひるがの高原 ドリンクヨーグルト
22	静岡県	丹那3.6牛乳	丹那全乳ヨーグルト
23	愛知県	中央牛乳 愛知産生乳限定	遠美半島 プレーンヨーグルト
24	三重県	大内山牛乳	大内山加糖ヨーグルト
25	京都府	ヒラヤミルク	ヒラヤプレーンヨーグルト
26	大阪府	毎日くう牛乳	いかるが プレーンヨーグルト
27	滋賀県	高木牛乳	伊吹のむヨーグルト
28	兵庫県	淡路島牛乳	丹波ヨーグルト
29	奈良県	いかるが3.6牛乳	至福のギリシャ
30	和歌山県	毎日牛乳	毎日ヨーグルト プレーン 脂肪0%

中国 / 四国 / 九州・沖縄 地方

No.	都道府県	牛乳	ヨーグルト
31	鳥取県	白バラ牛乳	大山高原 生クリームヨーグルト
32	島根県	木次バスチャライズ牛乳	メイプル牧場ヨーグルト BB-12プラス
33	岡山県	藤山ジャージー4.2	藤山ジャージーヨーグルト プレミアムプレーン
34	広島県	広勝げんき牛乳	長時間はっ酵ヨーグルト
35	山口県	やまぐち きらら牛乳	そよ風ヨーグルト
36	徳島県	とくしまの牛乳	プレーンタンタン
37	香川県	四国明治牛乳	四国のメリーヨーグルト ミルクの精
38	愛媛県	夕しほり牛乳	メイファーム生乳100% ヨーグルト
39	高知県	ひまわり高知の牛乳	ソフトヨーグルト
40	福岡県	永利牧場(まきば)の牛乳	「伊勢物語」のむヨーグルト
41	佐賀県	グリコJA牛乳さが生まれ	食べるヨーグルト(プレーン)
42	長崎県	ラクラン牛乳	らくのうヨーグルト
43	熊本県	森永のおいしい牛乳	ギリシャヨーグルト
44	大分県	みどり牛乳	生乳ソフトヨーグルト いちご
45	宮崎県	デーリィ牛乳	高千穂牧場 プレーンヨーグルト
46	鹿児島県	県酪農協牛乳	牧場の顔ヨーグルト 福岡あまおう産
47	沖縄県	森永酪農牛乳	明治ヨーグルト

「47都道府県 牛乳・ヨーグルト飲み食べ比べ」にご協力いただき、ありがとうございました!

インタビュー ブース出展した「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーの声

NPO法人 うしミルク / 一般社団法人 ヨグネット

NPO法人うしミルク 理事長 ミルクマイスター®高砂 さん
一般社団法人ヨグネット 代表理事 向井 智香 さん

うしミルクとヨグネットの共同ブースでは、ミルクや牛を入りに食農について学べる食の未来会議(うしミルク)と、ご当地ヨーグルトのプロップスと一緒に写真が撮れるフォトスポット(ヨグネット)を展開。来場者に地域のミルクや酪農、食農の循環について知るきっかけを作ることができました。



日本スナック・シリアルフーズ協会

専務理事 岩片 弘信 さん

異なる食品カテゴリー間のコラボにより、シリアルおよび牛乳・乳製品双方の需要拡大を図るため、日本スナック・シリアルフーズ協会と日本乳業協会は、共同でブースを出展しました。キッチンカーを出して、シリアルと牛乳・ヨーグルトの食べ合わせ提案を実施するなど、多くの来場者にご好評いただきました。



株式会社Real Style「ビーレジェンドプロテイン」

営業部 法人営業課 河本 大輝 さん

プロテインが牛乳の消費拡大の一助になり得る。そんな新たな光が見えたイベントでした。牛乳割りプロテインが筋トレ層以上にファミリー層に刺さり、「家族で飲めそう」「これなら続けられる」という声を多くいただきました。「牛乳で飲む価値」を体験として伝えられ、牛乳の飲用シーンを広げる手応えを感じています。



株式会社ミンナ「日々のパン」

代表 吉永 麻衣子 さん

森永乳業様とコラボで初出展させていただきました。スキムミルクとスライスチーズを使ったパン作りワークショップには、お子様から大人の方まで多くの方がご参加くださり、焼きたてのチーズパンを頬張る素敵な笑顔がいっぱいでした。これからも日々のパンは、簡単なパン作りで乳製品の魅力と家族の笑顔をお届けします。



来年度の開催日が決定

来年度の「ミルクフェス」は、2026年10月17日(土)に都内で開催します。詳細は、Jミルク会員メールおよび「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバー向け情報にて今後お知らせいたします。



給食のない休日には、おうちで牛乳を飲もう。

高校生・大学生&「牛乳でスマイルプロジェクト」メンバーとPR動画を共創

“第2の卒乳”後の牛乳の魅力を発信!

詳細は
土日ミルクサイトで
3月公開!



若い世代への牛乳の魅力発信を目的とする共創ワークショップを開催。高校生・大学生と酪農乳業関係者・クリエイターが、牛乳の自分らしい楽しみ方を提案する、動画コンテンツの方向性を話し合いました。



もっと自由に、自分らしく。牛乳との新しい距離感を再確認

2日間のワークショップでは、高校生・大学生の生活実感に基づく気づきや意見を引き出しながら、“第2の卒乳”(小中学校卒業)後の牛乳との新たな関わり方を検討。学生ならではの視点を取り入れたショートドラマやSNS向けの短尺動画など、若い世代が共感する企画案が生まれました。今後は、ワークショップで得られた案を基に制作を進め、完成したコンテンツを店頭やSNSで展開する予定です。

共創ワークショップ 2Days開催

- ◆日時: 2025年12月13日(土)、14日(日)
- ◆内容: 高校生・大学生と一緒に「どんなメッセージなら牛乳を飲みたくなる?」を考える
- ◆参加者: ①高校生・大学生:11名
②酪農乳業関係者:生産者(株)clover farm 青沼光さん、(株)山岸牧場 北出愛さん/乳業者(株)共進牧場 中尾嘉延さん/牛乳販売店(有)たにじりや 阪本俊介さん
③クリエイター:TOAL inc. 辻尾一平さん



「卒業してから牛乳を飲んでいない」「でも実はカフェで飲んでた!」という気づきも。



日本の酪農と国産牛乳の未来を、共創チームみんなで話し合った。

Day 1

- 酪農家、乳業メーカー、牛乳販売店のお仕事の魅力と日本のミルクサプライチェーンを学ぶ
- 酪農乳業関係者が講演、ワークショップに参加
- 牛乳・ヨーグルトの飲み食べ比べも実施

Day 2

Day1で学んだことを基に「どんな言葉なら牛乳を飲みたくなる?」を高校生・大学生が考案。クリエイターと一緒に発信内容を検討し、それぞれのアイデアを発表した



辻尾 一平さん 「牛乳でスマイルプロジェクト」参加メンバー グラフィックデザイナー(TOAL inc.)「珈琲牛乳のグラス」を手がける

学生の皆さんが自分の考えを整理し、堂々と発表されていた姿に感嘆しました。ユニークなアイデアも多く、私自身とても刺激を受けました。出たアイデアを絞るために実施した投票では、票が少なかった案ほど独自性があると思うので、その感性もぜひ大切にしてほしいと感じました。



共創チームのアイデアが込められた動画は、春休みに店頭サインエージやSNSで公開!

店頭サインエージ
ファミリーマート
イオン



予告

週刊土日ミルク第3弾 SNSで8名の漫画家が連載リレー

週刊土日ミルク
はこちら



漫画家:うのきさん
「牛乳に目覚めた日」



漫画家:しばひろさん
「国産チーズでフランス帰国」

「週刊土日ミルク」第3弾は2025年12月(年末)と2026年3月(春休み)に公開!年末は日本乳業協会の「教えて!牛乳先生」とのコラボのほか、中央酪農会議の「ナチュラルチーズコンテスト」にちなんだ作品も。

土日ミルクを創るヒト



CASE-12 ホクレン農業協同組合連合会

2025年度ラストは、東京・自由が丘の「MILK LAND HOKKAIDO→TOKYO」での活用事例をご紹介します!春休み最後の週末に「土日ミルクDAY(仮称)」を開催予定です。

土日ミルク
を創るヒト
はこちら



コミュニケーショングループ 次長
鈴木 浩子
Hiroko Suzuki

2025年度よりターゲットを「小・中学生」「高校生・大学生」「子育て世代」「シニア世代」へと幅広く拡大しました。学生たちのアイデアを取り入れながら、高校生・大学生を主な対象として制作した今回の動画は、次年度以降も多くの関係者の皆さまにご活用いただけるよう、土日ミルクサイトへデータ公開いたします。

需要拡大の取り組み
—ミルクのために、ひとつになろう—

New-Washoku

「乳和食」の魅力、いろんな視点で発信します

乳和食アンバサダー（Jミルク×FOODIST PARK）

減塩・Caアップ・たんぱく質アップにつながる調理法で、牛乳の利用シーンと需要拡大に貢献する「乳和食」。SNSでの情報発信をお手伝いしていただく、乳和食アンバサダーの皆さまの活動の一部をご紹介します！

総勢21名のアンバサダー！
くわしくはこちら



川津由紀子さん

ブログ
みんなで食べよ！
～おうちごはん




「ミルクきんぴら」



牛乳を活用することでいつもの和食が減塩になったり栄養価がプラスになったり、乳和食と出会って発見がいっぱいです！健康的に食生活を豊かにできる乳和食、おすすめです！

藤本マキさん

Instagram
@mackey_norimaki




「ブリの味噌煮」



乳和食はホエイの活用方法など学びが多く、Instagramでもさまざまな反響があります。おいしさはもちろん、ダイエットや美容にも良い点が魅力的です。

さいとうあきこさん

ブログ
圧力鍋で時短！
簡単！うちごはん




「しっとり鶏ハム」



和食に牛乳？と最初は半信半疑でしたが、試してみると減塩でもしっかりおいしくて、牛乳の新しい魅力を発見しました。



乳和食アンバサダー-現地見学会 in 磯沼ミルクファーム

昨年12月、東京都八王子市の磯沼ミルクファームさんを訪問。牛たちの愛らしさはもちろん、コーヒーかすを利用した堆肥や、野菜や果物など種類豊富なエサ、搾乳機の見学など学びの多い時間を過ごしました🥰参加したアンバサダーの皆さまも、酪農をより身近に感じていただけたようです🥰

新作レシピ&新リーフレットが登場！

料理家・管理栄養士 小山 浩子先生

物価高やタイプへの配慮、和食として違和感なく食べられることなど、作ってくださる方に寄り添った5品の新作レシピです。「New!」を目印にサイトで探してみてください。乳和食を通じて、牛乳をもっと好きになっていただけたらうれしいです。



新レシピ
5品はこちら



新リーフレット
4種はこちら



豆腐と桜エビのミルク炊き込みごはん



鶏の麩入りミルク塩昆布つくね



きのこと甘栗のミルクウスターソース煮



コミュニケーショングループ 主任
西沢 彩乃
Ayano Nishizawa

今年度はSNSを活用した乳和食の魅力発信に挑戦中です。アンバサダーの皆さまをはじめ、たくさんの素敵な投稿をぜひご覧ください！🥰小山先生による進化した乳和食、新たな5品も材料少なめで作り方もやさしいので、乳和食をよくご存じの方も初めての方もぜひ作ってみてくださいね🥰

“地域”の視点で学乳の価値を再定義

～地域の社会共通資本としての学乳の役割とその持続可能性～



乳の学術連合

学校給食用牛乳(学乳)の多面的価値とその持続可能性をテーマにしたシンポジウムが1月19日に開催されました。栄養供給だけでなく、地域経済やコミュニティに対する学乳の役割や、それを支える酪農乳業の現場を研究者が分析。酪農・乳業・学校教育関係者とのパネルディスカッションも交え、学乳の価値を生かした持続可能なフードシステム構築に向けて意見が交わされました。



シンポジウム登壇者。前列左から、福井みどり氏(板橋区立志村第三小学校校長)、田畑修一氏(たばた牧場)、久米克典氏(中央製乳株式会社 品質管理部 部長)。後列左から、柴英里氏(東洋大学 食環境科学部 准教授)、光成有香氏(尚網大学 現代文化学部 助教)、木村純子氏、前田浩史氏、清水池義治氏(北海道大学 大学院農学研究院 准教授)、野末みほ氏(常葉大学 健康プロデュース学部 教授)。

シンポジウム「学校給食用牛乳の多面的価値を未来へつなぐ ～地域が育む子どもの成長と持続可能なフードシステム～」

- ◆日時: 2026年1月19日(月)
- ◆主催: 一般社団法人Jミルク ◆協力: 乳の学術連合 ◆運営協力: 女子栄養大学出版部
- ◆後援: 農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人全国学校栄養士協議会、公益財団法人学校給食研究改善協会、畜産経営経済研究会、日本酪農教育ファーム研究会、日本酪農乳業史研究会

乳の学術連合「学校給食牛乳に関する領域横断的共同研究」チームメンバーのコメント



木村 純子氏 法政大学経営学部 教授(共同研究チーム代表)

プロジェクトは、子どもたちの未来と地域酪農を守るために、酪農乳業を取り巻く3つの課題、経済合理性(大規模生産品との価格競争に伴う資金調達への困難)、社会構造(学校休業中の需給調整負担や配送コストの増大)、人間関係(食育と酪農現場の断絶、担い手の意識格差といった精神的・文化的な隔たり)を乗り越える共創モデルを提示します。学乳を単なる食材ではなく、地域の共有財と捉え、テリトリーオの持続可能な地域循環型フードシステムの構築を目指すことが意義です。シンポジウムでは、野末氏が地産地消のフードマイレージの意義、清水池氏が需給調整の改善、柴氏が物流効率化、光成氏が食育と乳食文化の推進、木村氏が乳業メーカーの地域貢献を議論し、前田氏が学乳を「教育・地域・産業が交わる教材」と再定義して議論を統合しました。学乳は地域のコミュニティを再生させる鍵となります。



前田 浩史氏 乳の学術連合乳の社会文化ネットワーク 幹事

シンポジウムのテーマは「学校給食牛乳の多面的機能」でした。食べ物には「生きるための糧」「健康のための栄養」に加え、人生や社会をつなぐ「コミュニケーションの装置」としての価値があります。私は講演で、学校給食牛乳を「栄養とともに、地域の風土や生産者の苦勞、社会の願いを伝える『手紙』」と表現しました。パネリストとして登壇された福井校長先生は、「生産者の思いや乳業メーカーの工夫、地域の支え合いを、子どもたちが実感として学べる仕組みが必要」と指摘されました。大量消費社会で生産者と消費者の関係が弱まる中、学校給食牛乳は、持続可能な酪農の未来を支える力となり、子どもたちの学びを通じて社会全体のつながりを育みます。われわれは、学校給食牛乳の役割や価値をいま一度捉え直す必要があると思います。

(一社)日本スポーツ栄養協会と連携

スポーツ栄養に関心のある栄養士などに 牛乳・乳製品の価値を発信

牛乳・乳製品を学ぶWebセミナー「Online Milk Academy(ミルアカ)！」を全4回シリーズ(2025年12月～26年3月)で開催中。現場で役立つエビデンスに基づく牛乳・乳製品の知識やミルクレシピを取り上げ、スポーツシーンなどで実践や選択行動につながるヒントをお届けしています。

第3回ミルアカの
案内はこちら



鈴木 志保子先生 一般社団法人日本スポーツ栄養協会 理事長

「Online Milk Academy(ミルアカ)！」の1回目では、知っているようでしっかり理解できていなかった乳牛と牛乳について学び、2回目はチーズの世界を味わい、牛乳・乳製品を使った料理を実食して視聴者にお伝えしました。今、私はタンパク質とカルシウムを強化できるスキムミルク・ヨーグルトにはまっています!3月には、番外編「世界と日本の酪農史と乳食文化」のオンデマンド配信に加え、第1回～第3回の見逃し配信もあります!ぜひ、ご視聴ください。



学術調査グループ 部長
岩本 洋
Hiroshi Iwamoto

乳の学術連合
はこちら



チーズとミルクレシピをテーマにした第2回の配信から、鈴木氏が実食しながら、牛乳・チーズ・スキムミルクや乳和食を用いた活用方法をスポーツ栄養の視点で提案。



Makoto Yamaguchi



Akihiro Ogawa

学術調査グループ
専任部長 山口 真
主任 小川 哲弘

世界の知を、日本の力へ ～Jミルクの国際関連事業～



国際関連情報

International Information

Jミルク国際グループは、IDF・GDP・IFCN・DSFなどの国際酪農組織や、FAO、ISO、CODEX委員会など国連関係機関と連携し、最新の海外動向や国際規格の議論を国内へ還元するとともに、日本から海外への情報発信にも注力しています。日本の酪農乳業の発展と持続可能性に寄与する情報発信と基盤づくりに取り組んでいます。

[Jミルク国際委員会のコメント]



委員長 齋藤 忠夫氏 東北大学 名誉教授(国際酪農連盟日本国内委員会(JIDF)会長を兼務)

国際委員会の国際関連事業では、IDFを含む国際酪農組織やISOを含む国連関係機関からの情報収集と発信に精力的に取り組んでいます。IDF主催のワールドデーリーサミットや年間の各種委員会に出席し、活発に日本の主張や提案を発信し、得られた最新情報を共有発信する重要な役割を果たしています。また、将来的な乳・乳製品の海外輸出入では、乳等命令における乳分析法とISO分析法との国際的整合性を取ることは極めて重要であり、本国際委員会からもISO国内審議委員会と2つの専門分科会が検討に参画しています。今後は、我が国の酪農乳業の現状を分析し、海外の暑熱対策、水対策、持続的な酪農経営へのAI導入などの海外情報を迅速かつ正確に酪農家まで伝える双方向性の発展に一層注力したいと思います。



副委員長 大崎 修嗣氏 一般社団法人中央酪農会議 業務部 部長

国連総会において持続可能な開発目標に係る2030アジェンダが採択されてから10年が経過する中、消費者は商品選択に際して、価格やデザインなどの「見える価値」に加え、持続可能性という視点での製品から直接的には「見えない価値」も重視する傾向が強まっています。国際委員会の役割は、こうした消費者が求める新たな価値やその対応策について、海外の酪農乳業関係情報を収集し皆さまに提供することです。SDGs、GHG、AW、人権デューデリジェンスなどの横文字が多く、「とっつきにくい」と感じている方もいらっしゃると思います。できるだけ理解しやすい内容となるよう努めてまいります。皆さまもさまざまな情報が掲載されているJミルクWebサイトの「国際情報」をぜひご覧ください。



副委員長 森田 秀樹氏 株式会社 明治 取締役常務執行役員

副委員長長の森田です。私はGDPの運営委員であり、乳業に携わるものとして参加しております。国際委員会の重要な機能として、現場の「生の声」を届けることを私は意識しています。世界中にいる酪農家、乳業工場、物流・流通、および原材料のサプライヤーなどステークホルダーの方々の「生の声」を国際間で相互共有する、さらには、行政や研究機関、NPOなども共有する。「リアル(現場)」と「リアル」を「バーチャル(情報ネットワーク)」でつなぐイメージです。つながることによって、それぞれの「リアル」でイノベーションが生まれ、酪農乳業が発展していくと思いますので、国際委員会がご案内するイベントなどへ、皆さまの積極的な参加をお願いいたします。

2025年度 日本の持続可能な酪農研究会

オンデマンド配信

“サステナ酪農”の最新知見と実践例が配信で学べます



国際グループ
参与 菅沼 修
主任 岡島 江里

主な内容は
こちら



Jミルク 持続可能2025

Coming soon



事前に研究会の参加申し込みをされた方には、3月中に先行でオンデマンド配信いたします。また、5月以降にはJミルクのWebサイトで一般公開も予定しています。Webサイトでは、過去の研究会の動画も公開中です。ぜひご覧ください！

IDFワールドデーリーサミット2026が開催されます！

Healthy People, Healthy Planet, Healthy Economics (健全な人、健全な地球、健全な経済)



- ◆日時: 2026年11月15日(日)～11月20日(金)
- ◆場所: オークランド(ニュージーランド)
- ◆会場: ニュージーランド 国際会議センター(NZICC)
- ◆申し込み: **割引適用期間**
早期登録 2026年4月1日(水)～7月17日(金)
通常登録 2026年7月18日(土)～9月18日(金)

公式サイトは
こちら



研究・実践の成果をポスター発表

くわしくは
こちら



Shinichi Totsuka

国際グループ 部長 戸塚 新一

ワールドデーリーサミットは毎年開催される酪農乳業界最大のイベントで、世界の多様な関係者が一堂に会し、課題解決に向けた幅広い発表・議論を行います。ポスター発表は、日頃の研究・実践の成果を多くの人に知ってもらえるチャンスです。ぜひ挑戦してみてください。



アニマルウェルフェアの向上を目指すポリシーを制定しました

酪農乳業アニマルウェルフェアポリシー

Jミルクは、持続可能な酪農乳業産業の実現を目指し、酪農家におけるアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の実践を通じて、生産性の向上と安全で信頼される国産牛乳乳製品の安定供給が図られるよう、「酪農乳業アニマルウェルフェアポリシー」を定め、酪農乳業関係者の協力のもと、アニマルウェルフェアの向上のための必要な取り組みを推進していきます。

1. 適用範囲

本ポリシーは、酪農乳業に関連する団体及び企業等のサプライチェーン関係者を適用範囲とします。

2. 乳用牛の飼養管理

世界の動物衛生の向上を目的とする機関である国際獣疫事務局 (WOAH) コードによるアニマルウェルフェアに関する国際基準を基に策定された、農林水産省「アニマルウェルフェアにおける飼養管理等に関する技術的な指針」(2023年7月公表) に沿った乳用牛の適正な飼養管理の実現を図ります。

3. 家畜疾病対策

家畜疾病の発生予防やまん延防止の対策に取り組み、アニマルウェルフェアの向上に努めます。

4. 労働安全衛生

乳用牛の飼養に関わる生産者等の労働安全と健康の確保が、アニマルウェルフェアの向上にも寄与することから、その改善に取り組みます。

5. パートナーシップ※

本ポリシーの推進に協力する団体及び企業等とパートナーシップを構築し、関係者が一体となった取り組みを進めるとともに、消費者や流通関係者等との対話を通じてより良いアニマルウェルフェアの実現を目指します。

パートナーシップ
申請



6. 見直し

本ポリシーは、継続的に検証し、必要に応じて改定を行います。

※自主的な取り組みを通じて協力していただける団体・企業などの「パートナーシップ協力者」を募集しています。

「酪農乳業アニマルウェルフェアオンライン研修会」へぜひご参加ください

◆日時： 2026年3月11日(水)13:30 ~ 15:30

◆開催方法： ウェブセミナー(Zoomミーティング)

◆研修会プログラム

主催者挨拶： 一般社団法人Jミルク

来賓挨拶： 農林水産省 畜産局畜産振興課畜産技術室 課長補佐 中野 光 氏

講演： 「酪農産業におけるアニマルウェルフェアの位置づけ」
酪農学園大学 循環農学類 家畜管理・行動学研究室
教授 森田 茂 先生

説明1： 「乳用牛のアニマルウェルフェア対応に向けた取組み」
公益社団法人畜産技術協会 技術普及部AW課長 新井 友美 氏

説明2： 「酪農乳業アニマルウェルフェアポリシーの制定について」
一般社団法人Jミルク 生産流通グループ 次長 関 芳和

◆参加対象者：

- Jミルク会員・賛助会員など酪農乳業関係者
- 農林水産省・都道府県畜産課
- 酪農乳業関係組織・企業
- 畜産関係団体・企業
- 報道関係者

※上記関係者でない場合は、ご参加をお断りする場合がございますのであらかじめご了承ください。



研修会
のお申し込みはこちら



生産流通グループ 次長 関 芳和 Yoshikazu Seki

酪農乳業需給変動対策特別事業へのご協力をお願い

牛乳や脱脂粉乳の需要低迷により、脱脂粉乳の在庫が増加傾向にあるため、2025年度に続き2026年度も乳製品在庫削減対策を実施します。特に、冬・春休みの学校給食用牛乳(学乳)休止期には在庫が増加するため、全国の生産者と学乳供給事業者を含む乳業者が協調して、過剰在庫の削減と需要拡大に取り組みながら、生乳需給の安定を図っていくことが重要です。本事業の趣旨にご理解いただき、需給変動対策基金拠出へのご協力をよろしくお願いいたします。

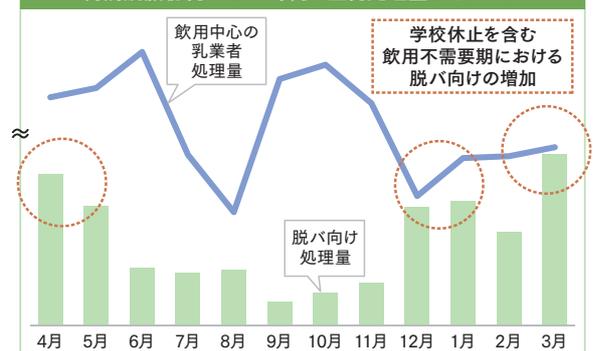


事務局次長 兼 生産流通グループ 部長 山崎 将至
生産流通グループ 次長 関 芳和

ご協力をお願い
チラシ(PDF)
はこちら



都府県の飲用を中心とした乳業者の処理量(日量)と月別脱脂粉乳・バター等向け生乳処理量のイメージ



最新研究でわかった！ ミルクの気になる

ギモン

vol.13

Q & A



学校給食に牛乳が出るのはなぜ？



必要な栄養素をバランスよく含む
学校給食に適した食品だから



牛乳・乳製品に関するさまざまな“ウワサ”や“ギモン”を、最新の研究成果を基にわかりやすく解説します。今回のテーマは「学校給食の牛乳」です。牛乳が採用されている理由と、歴史的経緯についても紹介します。

学校給食に牛乳が出る最大の理由は、子どもたちの成長に必要なカルシウムなどの栄養素をバランスよく含む、重要な食品と考えられているからです。文部科学省が定める「学校給食摂取基準」では、成長期の子どもたちに必要な栄養を確実に摂れるよう、家庭での摂取状況も踏まえた1食当たりの栄養基準を示しています。中でもカルシウムは、家庭の食事では不足しがちな実態があることから、他の栄養素よりも多くの摂取割合が求められています。ではなぜ、学校給食では他のカルシウム食品ではなく、牛乳が選ばれているのでしょうか。

その理由の一つが、牛乳に含まれるカルシウムの吸収率の高さです。日本人の食生活で不足しがちなカルシウムですが、牛乳に含まれるカルシウムは体内での吸収効率がよく、コップ1杯で1日の目標量の約3分の1を補うことができます。

さらに、調理を必要とせず、どの地域でも同じ品質で安定して提供できる点も、学校給食に適しています。野菜や小魚、豆製品など、牛乳以外の食品で同じ量のカルシウムを確保しようとすると、必要な食材の量が多くなる、費用がかさむ、献立のバリエーションが乏しくなるなどの課題が生じます。給食全体の栄養設計という観点から見ると、一定量を無理なく提供できる牛乳は、実務的にも効率のよい食品と言えます。

こうした理由から、牛乳は子どもたちの成長を支える栄養源として、学校給食の中で現在も選ばれ続けているのです。

カルシウム含有量が高い食材

食品によって異なる

カルシウム吸収率

- 約40% 牛乳
- 約33% 小魚
- 約19% 野菜

牛乳1カップ 200mL 227mg	ヨーグルト 100g 120mg	ナチュラルチーズ 20g 132mg	豆腐半丁 150g 140mg
小松菜(ゆで) 100g 150mg	チンゲン菜(ゆで) 100g 120mg	丸干しいわし 1尾(20g) 114mg	

【出典】カルシウム吸収率：上西一弘ほか、日本栄養・食糧学会誌Vol51、259-299(1998年)
カルシウム含有量：日本食品標準成分表(八訂)増補2023年

あ と が き



Shuji Ikegami

Jミルク アドバイザー 池上 秀二

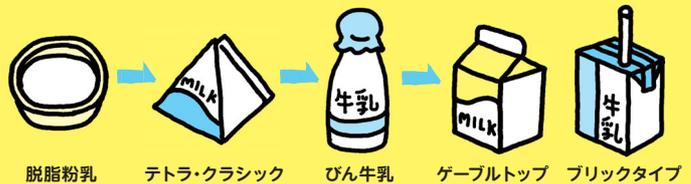
私が小学生の頃の給食は脱脂粉乳でした。当時飲んだ新鮮な牛乳のおいしさは忘れることができません。今では毎日の学校給食で、全国の子どもたちが新鮮な牛乳を味わっています。学校給食における牛乳の重要性を踏まえて、その栄養やおいしさについて、あらためて考えてみたいですね。 info@j-milk.jp

「ミルクの気になるギモン」のバックナンバーはこちら



Jミルク ミルクの気になるギモン

あなたの思い出の“牛乳”はどれ？



学校給食に牛乳が出るようになったきっかけの一つが、戦後の食糧難の時期にアメリカから脱脂粉乳の援助があったこと。その後、「学校給食法」(1954年)や「食育基本法」(2005年)を経て、学校給食は「栄養改善」から「食育」へと役割を広げていきます。

牛乳も、脱脂粉乳からびん牛乳、紙パックへとスタイルを変えながら、学校給食の定番メニューに。子どもたちの成長を支える食品として、また地域社会の仕組みを学ぶ「生きた教材」として、現在も活用されています。

学校給食の歴史はこちら

Jミルク 学校給食の風景

「学校給食の歴史」はこちら▶

ファクトブック「牛乳乳製品のおいしさ」

NEW



FACT BOOK



牛乳や乳製品を「おいしいー」と感じる瞬間、脳では何が起こっているのでしょうか？味覚だけでなく、香り、食感、見た目そして音。五感のすべてと、その日の気分や思い出が重なり合って生まれる「おいしさ」の正体を科学的にひもときます。いつものミルクがもっと味わい深くなる、発見に満ちた一冊です。

牛乳乳製品のおいしさ
五感と科学で読み解く



学術調査グループ 専任部長
山口 真
Makoto Yamaguchi

FACTBOOK一覧
はこちら



Jミルク FACTBOOK

くわしくはこちら



Jミルク 牛乳乳製品のおいしさ

日本のミルクサプライチェーン2025

Coming soon



「日本のミルクサプライチェーン」の2025年版を2026年3月に発行いたします。2024年版に引き続き、生乳の特性や流通の仕組み、需給環境をめぐる環境や課題などを紹介しているほか、昨年8月の乳価改定前後の牛乳販売個数の変化なども解説しております。ぜひ、皆さまの理解促進にお役立ただければ幸いです。



生産流通グループ
嶋 雄介 Yusuke Shima

くわしくはこちら



日本のミルクサプライチェーン2025

Jミルクインテリジェンス



世界の酪農乳業の最新動向を、タイムリーにわかりやすく解説するレポートです。市場や政策、技術などの変化を幅広く紹介し、国内の課題解決や未来創造に役立つ知見を提供しています。酪農乳業に関心のある一般の方にも理解を深めていただける内容です。一緒に、酪農乳業の「今」を見ていきましょう。



国際グループ 専任部長
秋山 正行
Masayuki Akiyama

くわしくはこちら



Jミルクインテリジェンス

なりきり広告クリエイター



(©Y.F/BKS)

なりきり広告クリエイター
土日ミルク×うんこドリル

うんこ先生と再びタッグ。『休みの日にお家で牛乳を飲もう！』とクリエイターになりきりポスターを作る学習プログラム「なりきり広告クリエイター」の授業補助や、宿題でも学習を進められるよう支援する動画教材を作成。子どもたちがミルクの価値を伝える「ことば」のクリエイターに！



学術調査グループ 課長
前 いずみ
Izumi Mae



牛乳大好き新入社員 ロクイチくん



くわしくはこちら



Jミルク ロクイチくん



コミュニケーショングループ 主任
ラフォリ 裕子
Yuko Lafolie

牛乳に関するギモンや専門的な情報を学べるアニメ動画です。公開以来、イベント会場や集会で活用いたたくさんいただいています！30秒のショート動画「知ってるようで知らない牛乳の世界」(全14本)をループで再生するのもおすすめです。データご希望の方はお問合せください。

★オンデマンド配信期限:2026年3月31日(火)まで★

「ジャパンミルクコンGRESS2025」(11月29日開催)特別講演のオンデマンド配信

モンゴルの人たちは、私たち日本人と同様、その大半が大人になると乳糖が消化できなくなる「乳糖不耐」です。ところがモンゴルは羊・山羊・牛など人口の20倍もの家畜を抱え、乳製品は人々の生活に欠かせない大切な食品になっています。この謎をクリスティナ・ワリナー先生が「考古生化学」という最新の手法で解き明かします。庄田先生のわかりやすい解説とともに、ワリナー先生のエキサイティングな講演をお楽しみください。(講演は日本語でも英語でも視聴できます。)

- ◆ 配信期限
2026年3月31日(火)
- ◆ 講演演題
人類の酪農史におけるラクターゼ持続性の拡がり腸内細菌叢の適応
- ◆ 講演者
クリスティナ・ワリナー 氏
(ハーバード大学 人類学・人類進化学部 教授)
- ◆ 解説・翻訳監修
庄田 慎矢 氏
(奈良文化財研究所 企画調整部国際遺跡研究室 室長)

視聴登録はこちら



学術調査グループ 主任
小川 哲弘
Akihiro Ogawa

Jミルク ジャパンミルクコンGRESS2025

#私のホットミルク

投稿期間
2025.12.15 mon. → 2026.1.31 sat.

ご参加いただき、ありがとうございました。
期間中、一丸となって盛り上げてくださった
酪農乳業関係者の皆さまの投稿をご紹介します！
※一部抜粋してご紹介



小野洋平@株式会社小野牧場
代表取締役
@Mc7LXD67aYbNoI0



山村乳業
@yamamura_milk



【北川牛乳店】牛乳屋さんの
ゼラート/生ゼラート
@kitagawamilk



JA 北海道中央会
根釧支所
@jakonsenshisyo



【公式】
UCCドリップポッド
@UCC_drippod



日東紅茶
【公式】
@nittoh_tea



新宿あわわ
【公式】
@sinjukuawawa



【公式】
JAグループ山形
@jagroupyamagata



milushi みるし@森永乳業
ミルクとウシと酪農のWebメディア
@webmediamilushi



みんなの
投稿まとめもあるよ



コミュニケーショングループ 主任
西沢 彩乃
Ayano Nishizawa

たくさんのご参加、どうもありがとうございました！ X、Instagramでは合計170を超える方々から670件以上の投稿をいただきました！「牛乳のポテンシャルの高さにあらためて驚かされました！」といったうれしいお言葉もいただき、牛乳のおいしさにあらためてありがとうございますの気持ちです。

Jミルク #私のホットミルク

編集後記

2025年度最後となる本号も、多くの皆さまのご協力に支えられ、発行することができました。牧場内の事務所や宿泊施設の本棚、乳業メーカーの工場見学施設に設置した写真、関係者への配布についてのご相談など、温かいご連絡を頂戴し、大きな励みとなりました。今後もJミルクのみならず、皆さまの取り組みをお伝える広報誌として、歩みを重ねてまいります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

Jミルクレポート



コミュニケーショングループ 次長
鈴木 浩子
@hiroko_suzuki
（ご意見・ご感想お待ちしております）



皆さまの声をお聞かせください！ 読者アンケートご協力をお願い



読者の皆さまの声を「Jミルクレポート」へさらに取り入れたく、短いアンケートをご用意しました。今後取り上げてほしいテーマなど、ぜひお聞かせください。寄せられたご意見・ご要望は、今後の誌面改善に活用させていただきます。
※所要時間は2～3分程度です

アンケートは
こちらから





2 特集

「牛乳でスマイルプロジェクト」今年度下期の取り組み

- ポータルサイト・SNSの活用
→ p2-3: ポータルサイトの機能強化/公式SNS発信
- 「ヨルグルト」キャンペーン
→ p4: ヨーグルトの需要拡大策を全国で展開
- ニッポンミルクガイド
→ p5: 地域の牛乳と出会える新サイトがオープン
- 牛乳販売店との連携
→ p5: シニアや子育て世代の家庭にチラシ配布
- キックオフイベント開催
→ p6-7: 「牛乳でスマイルプロジェクト ミルクフェス in 豊洲」
- 土日ミルク
→ p8: 高校生・大学生&メンバーとPR動画を共創
- 乳和食
→ p9: 乳和食アンバサダー/新作レシピ&新リーフレット

10 学術関連

- シンポジウム「学校給食用牛乳の多面的価値を未来へつなぐ」
- Online Milk Academy(ミルアカ)!

11 国際関連

- 世界の知を、日本の力へ ~Jミルクの国際関連事業~
- 2025年度 日本の持続可能な酪農研究会
- IDFワールドデーリーサミット2026開催について

12 生乳流通関連

- アニマルウェルフェアの向上を目指すポリシーを制定
- 酪農乳業需給変動対策特別事業へのご協力をお願い

13 Q&A Vol.13

- 最新研究でわかった! ミルクの気になるギモンQ&A
- 学校給食に牛乳が出るのはなぜ?

14 INFORMATION

- 最新コンテンツのお知らせ
- SNS企画「#私のホットミルク」参加のお礼

表紙・裏表紙イラスト: 佐藤 香苗さん(イラストレーター)



J-MILK REPORT Vol.53 | 発行日/2026年2月 編集・発行/一般社団法人 Jミルク

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-20 御茶ノ水安田ビル5階 TEL 03-5577-7492 FAX 03-5577-3236

✉ info@j-milk.jp 🌐 https://www.j-milk.jp 📘 https://www.facebook.com/jmilkjp

📷 j_milk_official 📺 @Jmilkofficial 📺 YouTube公式チャンネル